日ロ交流

発行　：特定非営利活動法人　日ロ交流協会
E-mail:nichiro@nichiro.org
Home Page http://www.nichiro.org
〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-14 麻布台マンション401号
Tel：03（5563）0626　Fax：03（5563）0752

NPO日ロ交流協会第20回通常総会開催

内堀 學

小池東京都知事より、コロナウィスル感染拡大の懸念から3月25日に都民に対し、3月28日週末より不要不急の外出自粛要請がだされた。それに伴って、当協会が3月28日（土）13時10分より首題総会の開催を予定していた港区の新橋生涯学習センターより、3月26日夜になって急遽当分の間施設利用を自粛するよう要請を受けたため、当協会事務所に開催場所を切り替えた。事務所の受け入れ人数は数名に限られるため、出席を予定されていた22名余りの正会員の皆様には急遽出席を自粛するようにお願いし、書面表決に切り替えて頂いた。出席者は副会長、専務理事、事務局長、監事に絞り、3月28日（土）13時より当協会事務所にて首題第20回通常総会が開催された。当日は、朝妻副会長、服部副会長、内堀専務理事、千葉事務局長、吉田監事の正会員5名が出席した。

総会の議長には定款26条に基づき服部副会長が選出され、続いて定款27条に基づく定足数の確認があり、正会員出席者5名、書面表決者79名、委任表決者9名の計93名となり、正会員数212名の3分の一（71名）以上であることが確認され、総会の成立が確認された。定款30条に基づく議事録署名人には、内堀専務理事、千葉事務局長常任理事が選任された。

続いて議案審議に移り、第1号議案「2019年度事業報告」、第2号議案「2019年度収支決算報告」、「2019年度会計監査報告」、第3号議案「2020年度事業計画」、第4号議案「2020年度収支予算案」、第5号議案「理事及び監事の選任」が審議され原案通り承認され、通常総会は13時30分に終了した。

2019年事業報告では文化交流部会、懇話会部会、アウトドア交流部会、ディアナ号部会、ロシア語日本語教育、ロシア留学支援、交流ツアー部会、記念行事実行部会、広報部会、ＨＰ管理部会、事業・業務企画検討委員会の活動内容が報告された。2020年度事業計画では文化交流、ロシア語教育に重点をおき、各部会の事業活動を継続していく方針が報告されるとともに、コロナウィスル感染拡大問題で既にロシア語教育など一時活動を停止せざるをえない状況が生じており、予断を許さない事態が生じていることが合わせ報告された。

新たに理事に選任された、笠原氏、重松氏、ディチャチェヴァ氏には今後とも当協会の活動に引き続きご支援ご協力をよろしくお願いいたします。　（専務理事）

お願い

NPO日ロ交流協会では、ロシアでの日本の伝統文化などの紹介、国内でのロシア関連の学習会、ロシア人とのイベント交流など幅広い活動を続けています。これらの活動を一層推進させるために皆様からのご寄付をお願い申し上げます。一口千円からいくらでも結構です。

振込先：郵便口座00160-9-66486、加入者：日ロ交流協会
連絡先：日ロ交流協会事務局E-Mail：nichiro@nichiro.org
Tel:03-5563-0626 Fax:03-5563-0752
＊内堀學氏からご寄付を頂きました。ご協力ありがとうございます。

お知らせ

●『ピアノリサイタルとトーク＝ロシア音楽と留学の話』
坂本 里沙子 氏

いま注目される若手ピアニストの坂本里沙子さんにピアノライブ演奏を交えつつロシアでの音楽留学、ロシア文芸についてお話して頂きます。

日時：5月30日(土) 12:30～14:30
会場：松涛サロン“タカギクラヴィア”渋谷区松涛1-26-4
演目：チャイコフスキー四季より「6月」他4曲
会費：学生／ロシア人2000 円、会員2200 円、一般2500円
申込: 会費区分・氏名・電話・E-mailなど明記して協会まで。
＊但し、コロナウィルスの影響が長引きますと、延期または中止になる可能性もございます。その際は、お申し込みの方には通知させていただきますのでご了承下さい。ご連絡先を明記くださいますようよろしくお願いいたします。

●ロシア語クラス

コロナウィルスの影響により、4月いっぱいすべてのクラスを休講といたします。生徒の皆様には、資料の送付やネットでのサービス等検討中です。しばらくの間ご迷惑をおかけしますがよろしくお願いいたします。

●第68回マトリョーシカ絵付け教室延期

2020年4月12日（日）13：30～16：30は、コロナウィルスの影響で会場からの自粛要請があり延期になりました。
＊お問い合わせ、お申し込みは協会事務局まで
Tel：03-5563-0626　Fax:03-5563-0752
E-Mail:nichiro@nichiro.org
＊自粛要請が出ている関係で、事務所をお休みにさせて頂いている日がございます。お問い合わせ、お申し込みはできるだけFAXかメールでお願いいたします。

古流松藤会展及び現在のロシア大使館における活け花のお稽古

山岸　ひさ子

令和２年の「古流松藤会展」が２月12日（水）から17日（月）まで、古流アカデミーにおいて華やかに開催されました。それぞれ競った作品に会場は早くも満開の木々、花々で埋め尽くされ、自由な発想の現代華、天・地・人、三方和合の伝統を受け継いできた古流の生花（せいか）様式は端正な調和美を形成し、それぞれの春を感じる作品で賑わいました。ロシア大使館で生け花のお稽古をされておられる皆様が、２月15日に揃ってお越しくださいましたことに、家元の池田理英先生はじめ、会の方々もたいへん感謝いたしております。

今回、私は中作の生花（手桶に白梅）をいけて出品いたしました。大使館の方々や通商代表部の皆様はご家族やお友達と14日にも見えられて、お好きな作品と一緒にたくさん写真を撮って行かれ、花の色や種類の選び方、花器とのバランスなどについて様々な質問をされました。生け花のお稽古を進めるうちに家でのお花の飾り方も変わってきて日本風なスタイルが益々好きになりました、など嬉しいお話も伺いました。

私がロシア大使館で生け花のお稽古に携わるようになった出発点は、当時の勤務先、大日本水産会（当時日ソ交流協会賛助会員）の社長が昭和39年のオリンピック・の年に、ソ連のチョウザメの稚魚と日本の鮎の稚魚と交換した折に、飼育場所を齋藤理事（故人）宅他２か所に10尾ずつ分散飼育に励んでおり、それから暫くして当時の協会の中地理事長（故人）と齋藤理事とのお話で始まったのがきっかけでした。

現在、ロシア大使館は毎月２回、10名ほどの方々が参加、通商代表部は毎月１回６名の方々が参加。坂本常任理事と伺っております。お稽古が終わるとリラックスしてお茶を頂きながら楽しく会話が始まります。休日には鎌倉や箱根、長野など日本の名所めぐりを楽しんでおられる様子が窺われます。４年でロシアへ帰国され、また何年か後に日本勤務になられた方が活け花のお稽古に加わってくださいますことの再会は本当に嬉しく感激でございます。

ロシア大使館のいけばなのお世話をしてくださいますエレーナさんは日本語も堪能でお忙しいのに色々とお気遣いいただいております。花展の際は、千葉常任理事、坂本常任理事、渡邉理事の皆様ありがとうございました。また、ご友人をお誘いいただき多くの方々に観賞くださいましたことを心から感謝申し上げます。（令和２年３月24日記）

国際放送史研究の戯言№.006

入館証

島田　顕

放送局、図書館、文書館など、ロシアの公共施設の入り口にはサブマシンガンを持った内務省軍兵士がいて、不審者が中に入らないように護衛している。中に入るためには入館証が必要である。入館証がないなら、作らなければならない。入館証の発行は施設によって異なる。

私がよく利用する、モスクワの都心にあるロシア社会政治史文書館（略称ルガスピ）については、まず宿泊滞在しているホテルから閲覧室のアルヒビストカ（文書館職員のこと、単語は女性形だが、文書館職員は女性が多いためである）に電話をかけ、何時に行くということを告げる。予約だ。そして予定の時間に文書館に着いたら、兵士がいる一階の受付の前から閲覧室に内線電話を入れ、自分を通してくれるように頼む。「やって来たよ。通してくれ」と閲覧室側に告げるのだ。そのあと、受話器を兵士に渡してくれと言うので、兵士にそのことを告げ受話器を渡し、アルヒビストカと話させる。兵士とアルヒビストカの会話が終わると、兵士はゲートのバーを上げてくれて、私を中に通してくれる。中に入ってエレベーターで５階の閲覧室に着くと、ドゥネブニーク（日誌）に署名し、ロッカーのカギを借りる。閲覧に必要なもの以外のものをロッカーに入れ、ようやく閲覧室に入ることができる。そこで2、3枚の書類が渡され、記入し（多くはロシア語で）、パスポート、ビザ、さらにピシモー（紹介状）を提示する。ようやくここで私に対して入館証が発行される。

ここで注目すべきは、自分のテーマについて問われることである。テーマ設定を狭く書いてしまうと、いざ文書を閲覧申請した時に、「この文書はお前のテーマと違う。だから文書は閲覧できない」と言われてしまうかもしれないので、広くとることが肝心である。私の場合は「国際労働運動と日本」のように、何でもあり、何でも大丈夫なように記入するようにしている。ルガスピではその場で入館証を発行してくれて、あとは目録を見ることになる（ちなみに目録を見て、史料閲覧請求してもその日に史料を見ることはできない。翌々日にようやく閲覧申請した史料の閲覧が可能となる）。2日後になってようやく入館証を渡してくれる施設もある。閲覧室の中に持ち込んでよいものは、筆記用具、ノート、コンピュータ、辞書などである。コンピュータを持ち込むときは、入館証発行の際に入館証に、「ス・コンピューテロム」（コンピュータとともに）と記入してもらわなければならない。

入館証で一番厄介だったのは、放送局の入館証（社員証＝ウダスタベレーニエ）である。放送局に入社してから、入館証が出来上がるまでに一か月はかかったと思う。入館証ができるまでは、建物の一階の入館証コーナーから内線電話をかけ、誰か先輩の職員を呼び出して、自分が来たことを知らせ、その先輩に私を中に通す書類を持ってきてもらうのだ。さらにその先輩が入館証コーナーの窓口に書類を提出して仮入館証（プロープスク）を作ってもらわなければならないのだ。わざわざ先輩に仕事を中断させ、私のためにご足労をおかけするわけだ。自分は入社したばかりで戦力にならないわけだから、毎日毎日恐縮する思いが続いたのだった。

入館証については、放送局を辞める時の特別な思い出がある。最後の仕事の日、休日だったので仕事をしていた日本人は自分ひとりだけだった。翻訳を終え、アナウンスを終えると、普段は身支度を整え、自由に帰宅する。だが特別にその日だけは、ロシア人職員（その日のヴィプスカーエシ＝ディレクター）と一緒に局舎を出なければならなかった。エレベーターで降り、兵士がいる一階のゲートを通過すると、私の入館証は取り上げられてしまったのだ。入館証がないから局舎に再び入ることはできない。だから「もう二度と来るな」と言われたような感じになって、とてもさみしい思いを味わいながら、一人とぼとぼと宿舎に帰ったのだった。

《モスクワ・アラカルト58》

10年ぶりにフィリップのショパンを聴いて

日向寺 康雄

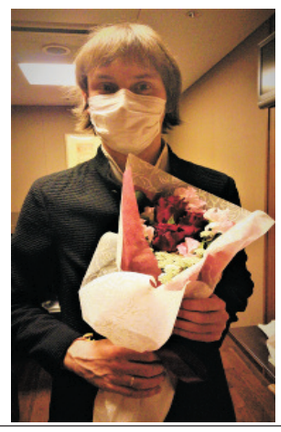
3月8日、新型コロナウイルス感染拡大という脅威の中、ぎりぎりまで実現が危ぶまれていたフィリップ・コパチェフスキーによる銀座ヤマハホールでのオール・ショパン・ピアノ・リサイタル（主催MCSヤング・アーティスツ）が無事終わった。これは何よりも熱心な音楽ファンの方々のおかげである。330余りの席は、多分ガラガラだろうとほとんどあきらめていたが、何と半分近く埋まった。裏方のバイトさんが全く集まらず、ホール主催のイベントはすべて中止され、コンサートの実施自体を批判する電話やメールもたくさんホールや招聘元に届いたようだが、当日は厳しい防疫措置が取られ混乱はなかった。

実は私はフィリップとは長い付き合いで、彼がまだ駆け出しでNHK名曲アルバムコンサートに出演し16歳から20歳ぐらいまで日本各地を回っていた頃、ずっと通訳をしていた。日ロ国交回復50周年を記念して交流協会が在日ロシア大使館で催した特別行事では、千葉事務局長や滝波常任理事の御尽力で、彼をゲストに呼んで頂いた事もある。初来日の折に宣伝用写真を撮影した際、カメラマンに髭（まだ濃い金髪の産毛だった）を剃るよう頼まれ、マリーナ・ママがびっくりし（当時ロシアの法律では16歳以下の未成年者が国外で仕事をする場合、保護者の同伴が必要だった）「この子が髭を剃るのは生まれて初めてだわ」と言って、スタッフ皆で大笑いしたことも今は楽しい思い出だ。

彼と最後に仕事をしたのは2010年夏、福島各地で「いのちの電話」が主催したコンサートだったから、彼の演奏をじっくりソロで聞くのは、ほぼ10年ぶりだった。その間、彼は生涯の伴侶を見つけ結婚。スピヴァコフやプレトニョフらロシアのクラシック音楽界を牽引する巨匠らに認められ彼らのオーケストラと共演した他、英国、ドイツ、米国、フランス、イタリア、スペインなどでも演奏。また昨年のチャイコフスキイ国際コンクールでは惜しくもファイナル進出は逃したものの客席を沸きに沸かせた。

さて久しぶりのフィリップの演奏だが、十分堪能させてもらった（3回のアンコールを含め）。肉体的にも、精神的にも、創造的にもたくましく確かに成長した姿は驚きだった。以前は、搾りたての新鮮なグレープジュースのような未完成の初々しい魅力が売りだったが、今回は重低音も弾きこなし、時に熟成した香り豊かなワインのような深い大人の味わいある音も出せるようになっていた。

コンサート後、招聘主の渡辺さんにお寿司を御馳走になったあと、私達は二人で人気もまばらな銀座をゆっくり散歩した。国が違っても、自分がその人生に関わった若い命の輝きが増してゆくのを見るのは、本当に嬉しく幸せなことだ。還暦を過ぎた今しみじみそんなことを思う。フィリップは2月に30歳になった。（元モスクワ放送チーフアナ、現在中央大・早稲田大非常勤講師）



＊左の写真は、日本からモスクワのママへ、3月8日の国際婦人デーを祝って贈った花束。

モスクワ「ムゼイ」巡り・その20

プリャンニク博物館

Музей пряника

大矢 温

プリャンニク、というロシアの伝統的なお菓子をご存じだろうか。一口にプリャンニクといっても千差万別なのだが、ロシアの月餅、とでも言おうか、要するに蜂蜜などの甘い餡を小麦粉で包んで焼き上げたものが一般的だ。木型で模様を押し出したものや、色付き砂糖で飾ったものもある。餡を含まずに砂糖でコーティングしたクッキーのようなプリャンニクもある。ロシア各地で作られ各地にご当地プリャンニクがあるのだが、特に蜂蜜を餡にしたトゥーラのものが有名だ。で、今回はモスクワ市内にあるプリャンニクの博物館。それも公営ではなく、私設の小さな博物館だ。

ロシアのムゼイ、というと立派な公営の博物館美術館が目白押しではあるが、ニッチなテーマの小規模の私設博物館も最近は増えてきた。今回のプリャンニク博物館もそのような博物館の一つ。ごく平凡な住宅街のアパートの地下階にこぢんまりと開設されている。狭い館内ではあるが、プリャンニク教室の子供たちの歓声が響き渡って、家庭的な雰囲気の中にも活気に満ちている。この教室ではパン生地をこねて形を整え、それを色砂糖で飾り付けしてオーブンで焼き上げる…という一連の作業を体験できるのだ（予約制）。一時間ほどでプリャンニクは完成となるが、プリャンニク教室に参加しなくても館内に展示されている子供たちの作品やプリャンニクで作られたお菓子の街を見学して、そのあと売店でお土産用にここで作られたプリャンニクを買うだけでも十分訪れる価値がある。お茶を出してもらってその場で試食してもいい。ロシア語が分かればプリャンニクの歴史についても学ぶことができる。職員の人がプリャンニクの作品や木型を示しながら説明してくれる。

赤の広場からもそう遠くないマロセイカ通りのすぐ裏手にあるので、モスクワの旧市街を散歩する際にちょっと寄り道して訪れるのがおすすめ。博物館自体は非常に小さいので、見学だけなら10分程度で全部見て回れる。

入場無料、プリャンニク教室は450ルーブリ～

休館日：月曜

所在地：Хохловский пер.11, строение 1

最寄り駅：地下鉄キタイ・ゴロドКитай-город

幻のムルマンスクツアー

畔上 明

本来であれば、4月1日よりムルマンスクへ出かけているはずでした。

10名程の方々と「ロシア北極圏への旅」のツアー実施に向けて準備を進めているさなか、3月半ばを過ぎてロシア政府が3月18日から5月1日までの間の外国人のロシア入国禁止を発令、それに伴ってご参加の方々には既に発給されていたビザの付いたパスポートを返却し、旅行代金全額を返金するために手許に送られてきていた夜行列車のEチケットやサンクト・ペテルブルクのマリインスキー劇場指定席券を始めとする現地手配のキャンセル処理、航空会社との交渉がなされました。

中国武漢に端を発した新型コロナウィルス騒動は、日本、韓国、ヨーロッパEU諸国や、英米に於いても感染拡大はとどまるところを知らず、騒ぎから縁遠いとさえ思われたロシアまでも遂には緊急事態の対応決定がなされたのでした。

連日の報道により、交流の活動に従事しておられる方々、イベント事業者、そしてまた、旅行業界で働く人々はどれほど辛い思いをまだまだ強いられることになるか無念さが募ります。

旅のご案内には「オーロラを求めて」、そして「寒さを感じる時ほどより一層ロシア料理は美味しく、北で味わうウォッカこそ心に沁みる…」と謳い、4月半ばまでは北極圏でのオーロラ観測の可能性があること（写真左）、先住民族サーミ人村訪問、ハスキー犬飼育場、そしてムルマンスク市内の原子力砕氷船「レーニン号」やアリョーシャの像を見学、3日後には夜行列車「アルクチカ（北極号）」にて南下、オネガ湖の畔りメドヴェジェゴールスルで下車して、凍結している湖の氷上をホバークラフトにてキジ島へと向かうのでした。

2001年ロシアの現地旅行手配をなりわいとしていた時に、早稲田大学エクステンションセンターでのオープンカレッジにて「ロシアを知る」という講座が開かれ、2003年までの3年間その講師をする機会がありました。

受講された方々を中心に20名程でロシアに行こうという話になり、2001年9.11の翌日から「黄金の秋ロシア」の名のもと、ロシア二大都市に加えて古都ノヴゴロドを訪れ、その参加者の集りを「ノヴゴロド会」と命名。会の方々と共にその後毎年のように「バルト三国」「ウクライナ」「アルメニア・グルジア」「ウズベキスタン」などへ出掛けたものでした。しばらく時を置いて3年前には「冬のバイカル湖とシベリア鉄道」、更にその参加者の発案で翌年、木造建築教会がユネスコの世界文化遺産に登録されている「キジ島」まで足を延ばしたのです。しかし、島の中心プレオブラジェンスキー教会が何と工事中、ツアー参加者は、好意的にとらえ数百年の時を経たクーポラ（キューポラ、ネギ坊主の丸屋根）がいぶし銀の様な味のある美しさを示しているその並びに、削った菱形ヤマナラシを組合わせた新たなクーポラが金色の輝きを見せて完成前のその対比の面白さを感じたのでした。

さらに、この教会の修復工事が終わる2020年に再度キジ島を訪れたいという思いを持った方々によって今回のツアーが企画され、出発しようとした直前に、待ったがかかったという現状です。

（「プロコ・エアサービス」シニア・アドバイザー）

＜投稿＞

ツポレフ154について

寺島 栄一

私はソビエト崩壊後，初めてロシアを訪問し，社会主義の生活様式を訪ねるという目的でモスクワのアパートを訪問し，ソビエト時代の生活様式を見学することができた。1990年代後半期には，そうしたツアーが組まれており，これが最後の機会と思い参加した。そのとき最も楽しみにしていたことのひとつが，ソビエト製の飛行機に搭乗することができるかということだった。運よくモスクワ～サンクトペテルブルク間の国内線でソビエト製の飛行機に搭乗することができた。それがツポレフ154型である。ツポレフは著名な飛行機設計者であるアンドレイ・ツポレフが創設した現ツポレフ公共会社が開発した飛行機である。

ツポレフは20世紀の最も偉大な航空機設計者として知られている。1888年10月10日生まれ。トゥビョルスカヤギムナジウム卒。

ツポレフ154型は中距離旅客機として開発されたもので，旧ソビエト時代ＯＫＢ（общественное конструкторское бюро）で設計されたものである。試験飛行はスホフ試験飛行士によって，1968年10月3日に行われた。

最初のツポレフ154型シリーズは1970年に製造が開始され，ツポレフ154－Ａシリーズとして製造された。この飛行機は最大離陸重量94トンで最初に路線に導入されたのが1972年2月9日である。1975年には最大離陸重量98トンのツポレフ154－Бシリーズが出現した。ツポレフ154はクイビシェフ（現在はサマーラ）飛行機工場で製造されたが，ＯＡＯ（Открытое акционерное общество；公開会社）アビアクトル飛行機工場に衣替え後，製造は2013年に終了している。今まで930機ほど製造された。ノボシビルスクにはツポレフ154記念碑がある。

ＡＢＳＵ（автомазированная бортовая система управления），自動操縦システムを採用し，ＩＫＡＯやEUROCONTROLに認証を受けたのが，ツポレフ154Mシリーズである。ツポレフ154は特に旧共産圏諸国に輸出されており，モンゴルにも輸出されている。

モンゴルの最初の飛行士はイチンホルローである。その後のツポレフ154の運命はというと機体の事故率が高く，引退が相次いでいるという。事故の原因はパイロットの判断ミスやメンテナンスの不備が多いというが，デザインが優れ効率的な飛行機だったので私は残念だと思っている。

以上簡単な紹介をしたが，昔と違いロシア国産機が日本を訪れることが，ほとんどなくなってしまい，寂しさを感じる今日この頃である。（会員）